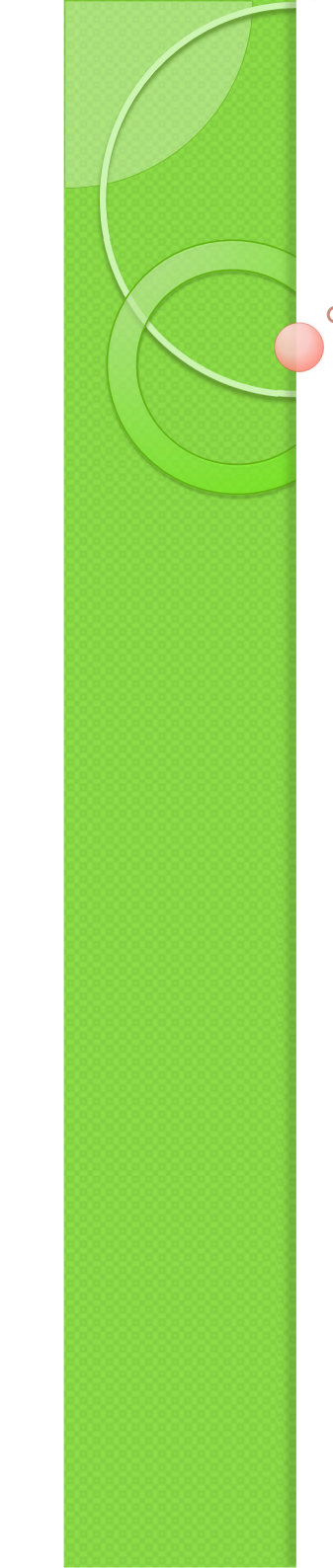




意思決定科学

階層化意思決定法

Analytic Hierarchy Process

堀田敬介

2025年11月25日, Tue.

Contents

- はじめに
- AHPの基礎
 - 意思決定問題の特徴
 - 階層構造
 - 一対比較
- 実施における補足
 - 一対比較の見直し
 - グループAHP
 - 不完全一対比較
 - 評価基準の独立性
- AHPからANPへ

はじめに

- 複数の代替案を比較検討したい

- 例) 今日のお昼ご飯どうしよう

- ・ 代替案1: 定食
- ・ 代替案2: カレーライス
- ・ 代替案3: そば
- ・ 代替案4: ステーキ
- ・ 代替案5: ラーメン

- 評価項目

価格

健康面

時間

今日の気分



意思決定問題の特徴

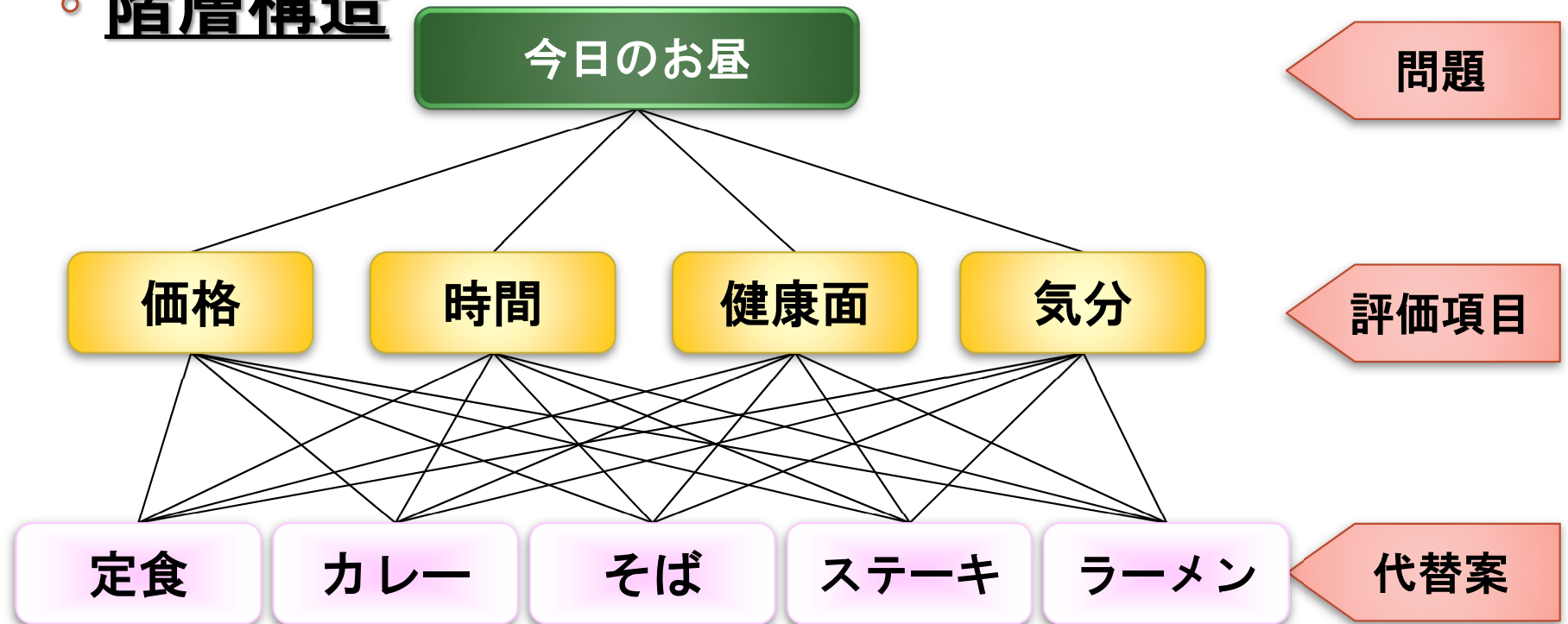
- 複数の代替案から1つ選択
- 意思決定者は独自の評価基準に基づいて決定を下す
- あらゆる評価項目に対してベストの代替案があることは稀
- 評価項目は通常複数あり、互いに利害が相反する面を持つ
- 複数の項目を同時に考慮・判定せねばならない

難しい!

AHPの基礎

- AHPのポイント

- 階層構造



- 一対比較

- 定食 vs カレー
- カレー vs そば
- そば vs ステーキ
- ステーキ vs ラーメン
- 定食 vs そば
- カレー vs ステーキ
- そば vs ラーメン
- 定食 vs ステーキ
- カレー vs ラーメン
- 定食 vs ラーメン

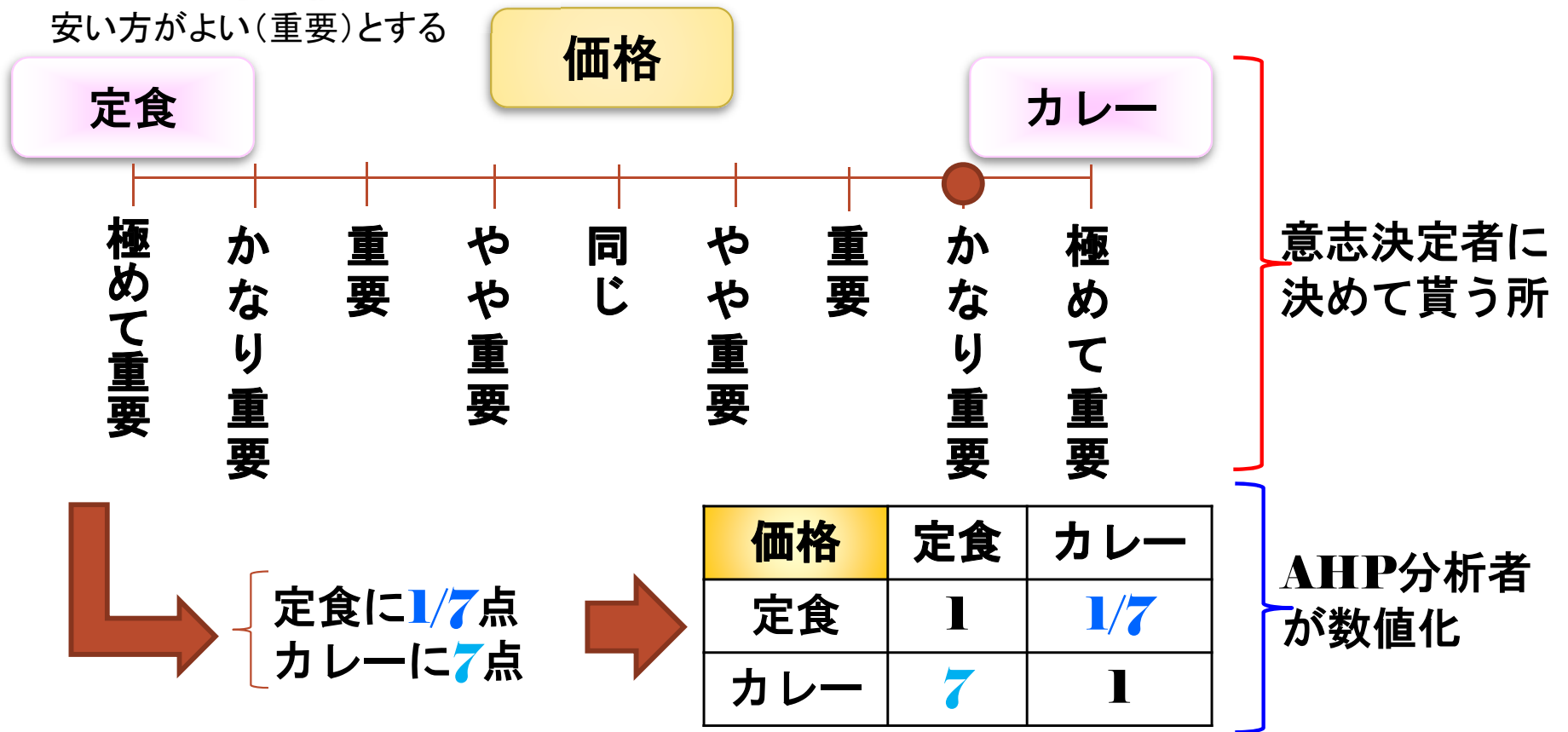
AHPの基礎

● 一対比較

9	Aの方がBより極めて重要	absolute importance
7	Aの方がBよりかなり重要	strong importance
5	Aの方がBより重要	importance
3	Aの方がBよりやや重要	weak importance
1	AとBは同じくらい重要	equal importance
1/3	Aの方がBよりやや重要でない	not ...
1/5	Aの方がBより重要でない	not ...
1/7	Aの方がBよりかなり重要でない	not ...
1/9	Aの方がBより極めて重要でない	not ...

例) 価格に関する定食とカレーの一対比較

安い方がよい(重要)とする



AHPの基礎

● 一対比較

9	Aの方がBより極めて重要	absolute importance
7	Aの方がBよりかなり重要	strong importance
5	Aの方がBより重要	importance
3	Aの方がBよりやや重要	weak importance
1	AとBは同じくらい重要	equal importance
1/3	Aの方がBよりやや重要でない	not ...
1/5	Aの方がBより重要でない	not ...
1/7	Aの方がBよりかなり重要でない	not ...
1/9	Aの方がBより極めて重要でない	not ...

価格	定食	カレー	そば	ステーキ	ラーメン
定食	1	1/3	1/5	1/9	1/7
カレー	3	1	3	5	1/3
そば	5	1/3	1	9	5
ステーキ	9	1/5	1/9	1	1/5
ラーメン	7	3	1/5	5	1

一対比較行列 paired comparison matrix

$$A = \begin{bmatrix} a_{11} & \cdots & a_{1n} \\ \vdots & \ddots & \vdots \\ a_{n1} & \cdots & a_{nn} \end{bmatrix} \in R^{n \times n} \quad \text{ただし} \quad \begin{cases} a_{ij} > 0 \quad (\forall i, j) & \text{〔要素は全て正〕} \\ a_{ji} = \frac{1}{a_{ij}} \quad (\forall i, j) & \text{〔対称要素は逆数〕} \\ \sum_{i=1}^n a_{ij} = 1 \quad (\forall j) & \text{〔列和は1〕} \end{cases}$$

AHPの基礎

- 一対比較行列 $A = \begin{bmatrix} a_{11} & \cdots & a_{1n} \\ \vdots & \ddots & \vdots \\ a_{n1} & \cdots & a_{nn} \end{bmatrix}$ から重要度を計算

- 主固有ベクトル法

- 固有方程式 $Ax = \lambda x$ ($x \neq 0$) を解いて重要度 w を計算
- 主固有値 λ , 主固有ベクトル $x \Rightarrow w_i := \frac{x_i}{\sum_{i=1}^n x_i}$ ($i = 1, \dots, n$)

- 簡便法1：幾何平均法

- 幾何平均 $g = (g_1, g_2, \dots, g_n)$ を計算して重要度 w を計算
- $g_i := \sqrt[n]{\prod_{j=1}^n a_{ij}} = \sqrt[n]{a_{i1} \times \cdots \times a_{in}} \Rightarrow w_i := \frac{g_i}{\sum_{i=1}^n g_i}$ ($i = 1, \dots, n$)

- 簡便法2：調和平均法

- 調和平均 $h = (h_1, h_2, \dots, h_n)$ を計算して重要度 w を計算
- $h_i := \frac{1}{\frac{1}{n} \sum_{j=1}^n \frac{1}{a_{ij}}} \Rightarrow w_i := \frac{h_i}{\sum_{i=1}^n h_i}$ ($i = 1, \dots, n$)

AHPの基礎

- 一対比較行列から**重要度**を計算
 - 主固有ベクトル法

- 固有方程式 $Ax = \lambda x$ ($x \neq 0$) を解いて**重要度** w を計算

$$\begin{bmatrix} 1 & 1/3 & 1/5 & 1/9 & 1/7 \\ 3 & 1 & 3 & 5 & 1/3 \\ 5 & 1/3 & 1 & 9 & 5 \\ 9 & 1/5 & 1/9 & 1 & 1/5 \\ 7 & 3 & 1/5 & 5 & 1 \end{bmatrix} \cdot \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \\ x_4 \\ x_5 \end{bmatrix} = \lambda \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \\ x_4 \\ x_5 \end{bmatrix}$$

主固有値： $\lambda = 7.039$

主固有ベクトル

$$\begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \\ x_4 \\ x_5 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0.066 \\ 0.520 \\ 0.691 \\ 0.143 \\ 0.476 \end{bmatrix}$$

価格	定	カ	そ	ス	ラ	主固有ベ	重要度
定食	1	1/3	1/5	1/9	1/7	0.066	0.035
カレー	3	1	3	5	1/3	0.520	0.274
そば	5	1/3	1	9	5	0.691	0.365
ステーキ	9	1/5	1/9	1	1/5	0.143	0.075
ラーメン	7	3	1/5	5	1	0.476	0.251
						1.896	1.000

AHPの基礎

- 一対比較行列から**重要度**を計算

- 簡便法1：幾何平均法**

- 幾何平均 $g=(g_1, g_2, \dots, g_n)$ を計算して**重要度** w を計算

- $$g_i := \sqrt[n]{\prod_{j=1}^n a_{ij}} = \sqrt[n]{a_{i1} \times \dots \times a_{in}} \quad \Rightarrow \quad w_i := \frac{g_i}{\sum_{i=1}^n g_i} \quad (i = 1, \dots, n)$$

価格	定	力	そ	ス	ラ	G.M.	重要度
定食	1	1/3	1/5	1/9	1/7	0.254	0.038
カレー	3	1	3	5	1/3	1.719	0.256
そば	5	1/3	1	9	5	2.371	0.354
ステーキ	9	1/5	1/9	1	1/5	0.525	0.078
ラーメン	7	3	1/5	5	1	1.838	0.274
						6.708	1.000

例) 定食のGMは $g_1 := \sqrt[5]{1 \times \frac{1}{3} \times \frac{1}{5} \times \frac{1}{9} \times \frac{1}{7}} = 0.254$, 重要度は $w_1 := \frac{0.254}{6.708} = 0.038$

AHPの基礎

- 一対比較行列から**重要度**を計算

- 簡便法2：調和平均法**

- 調和平均 $h=(h_1, h_2, \dots, h_n)$ を計算して**重要度** w を計算

- $$h_i := \frac{1}{\frac{1}{n} \sum_{j=1}^n \frac{1}{a_{ij}}} \quad \Rightarrow \quad w_i := \frac{h_i}{\sum_{i=1}^n h_i} \quad (i = 1, \dots, n)$$

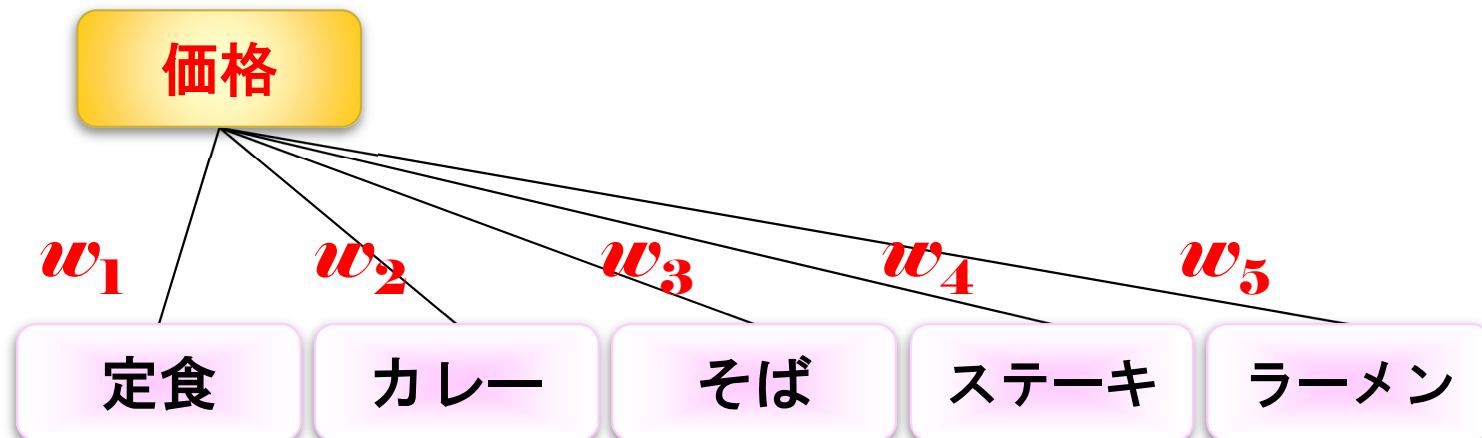
価格	定	力	そ	ス	ラ	H.M.	重要度
定食	1	1/3	1/5	1/9	1/7	0.200	0.060
カレー	3	1	3	5	1/3	1.027	0.308
そば	5	1/3	1	9	5	1.108	0.333
ステーキ	9	1/5	1/9	1	1/5	0.249	0.075
ラーメン	7	3	1/5	5	1	0.749	0.225
						3.333	1.000

例) 定食のHMは $h_1 := \frac{1}{\frac{1}{5}(\frac{1}{1} + \frac{3}{1} + \frac{5}{1} + \frac{9}{1} + \frac{7}{1})} = 0.200$, 重要度は $w_1 := \frac{0.200}{3.333} = 0.060$

AHPの基礎

- 重要度から総合得点を計算
 - [価格]に対する代替案の重要度

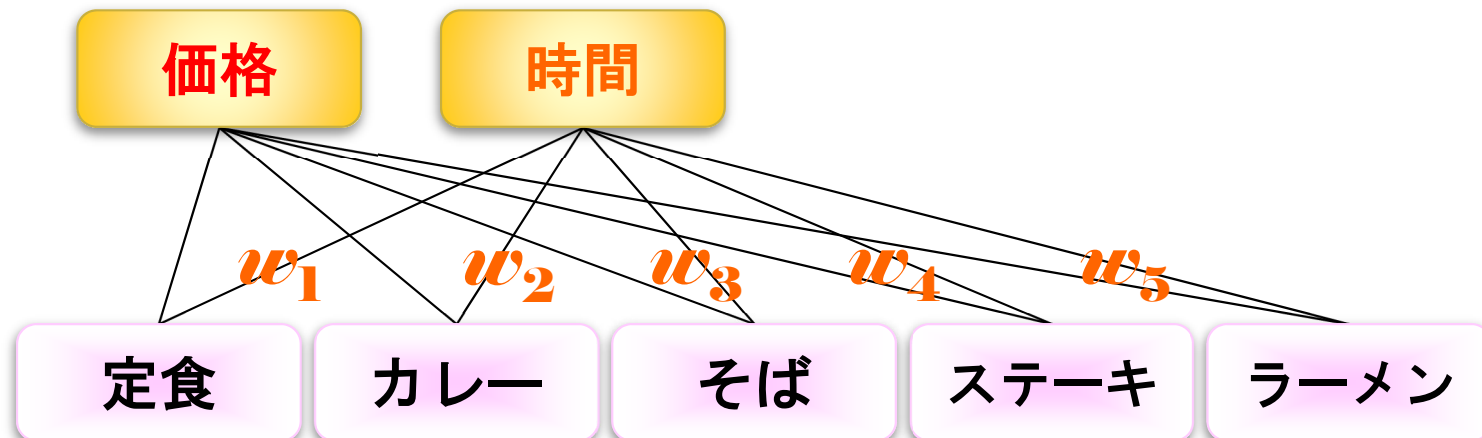
価格	定	カ	そ	ス	ラ	重要度
定食	1					w_1
カレー		1				w_2
そば			1			w_3
ステーキ				1		w_4
ラーメン					1	w_5



AHPの基礎

- 重要度から総合得点を計算
 - [時間]に対する代替案の重要度

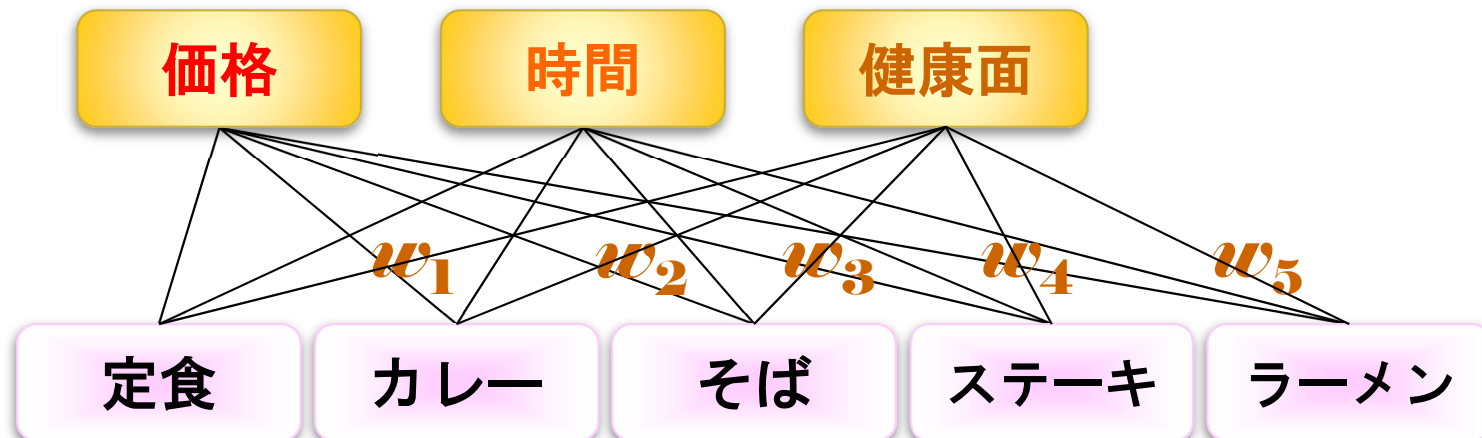
時間	定	カ	そ	ス	ラ	重要度
定食	1					w_1
カレー		1				w_2
そば			1			w_3
ステーキ				1		w_4
ラーメン					1	w_5



AHPの基礎

- 重要度から総合得点を計算
 - [健康面]に対する代替案の重要度

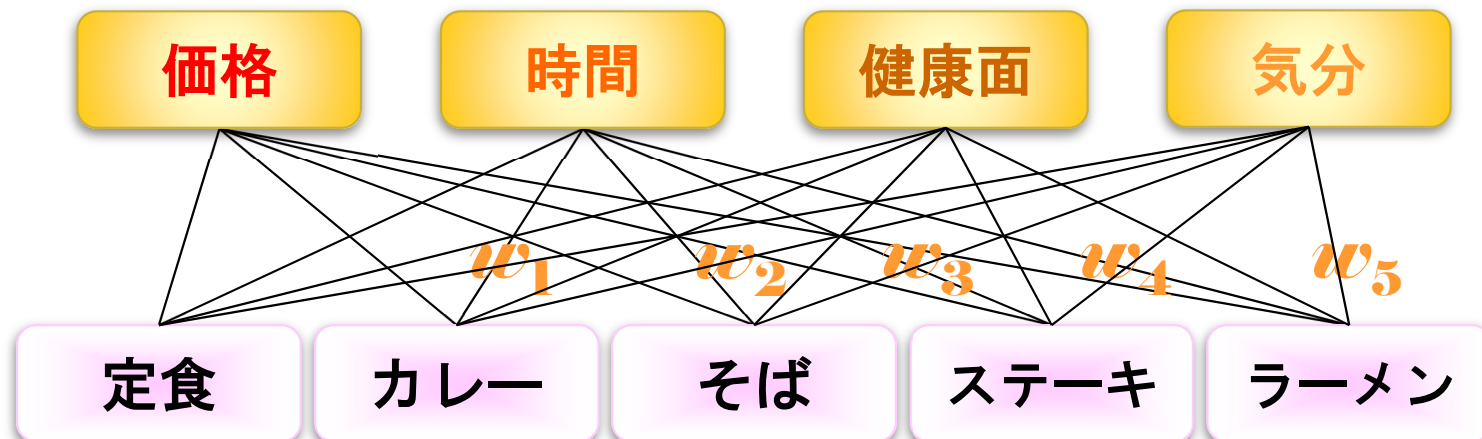
健康面	定	力	そ	ス	ラ	重要度
定食	1					w_1
カレー		1				w_2
そば			1			w_3
ステーキ				1		w_4
ラーメン					1	w_5



AHPの基礎

- 重要度から総合得点を計算
 - [気分]に対する代替案の重要度

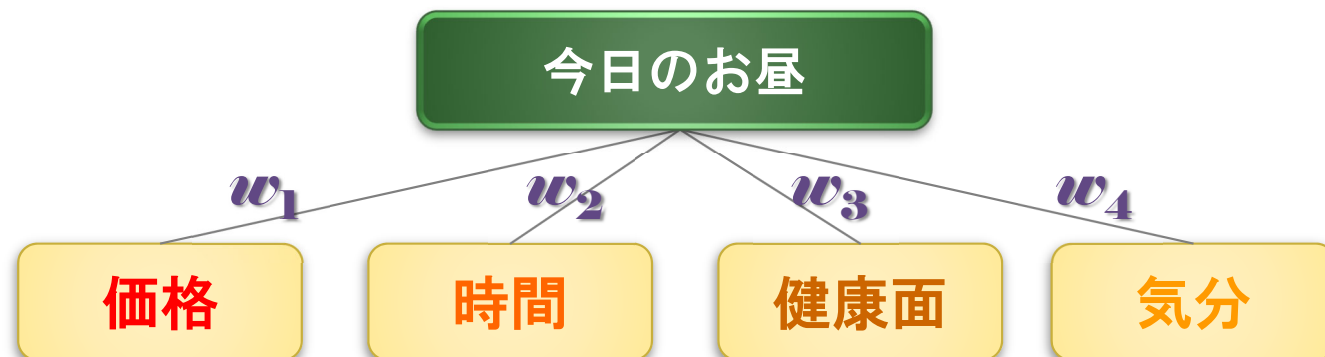
気分	定	カ	そ	ス	ラ	重要度
定食	1					w_1
カレー		1				w_2
そば			1			w_3
ステーキ				1		w_4
ラーメン					1	w_5



AHPの基礎

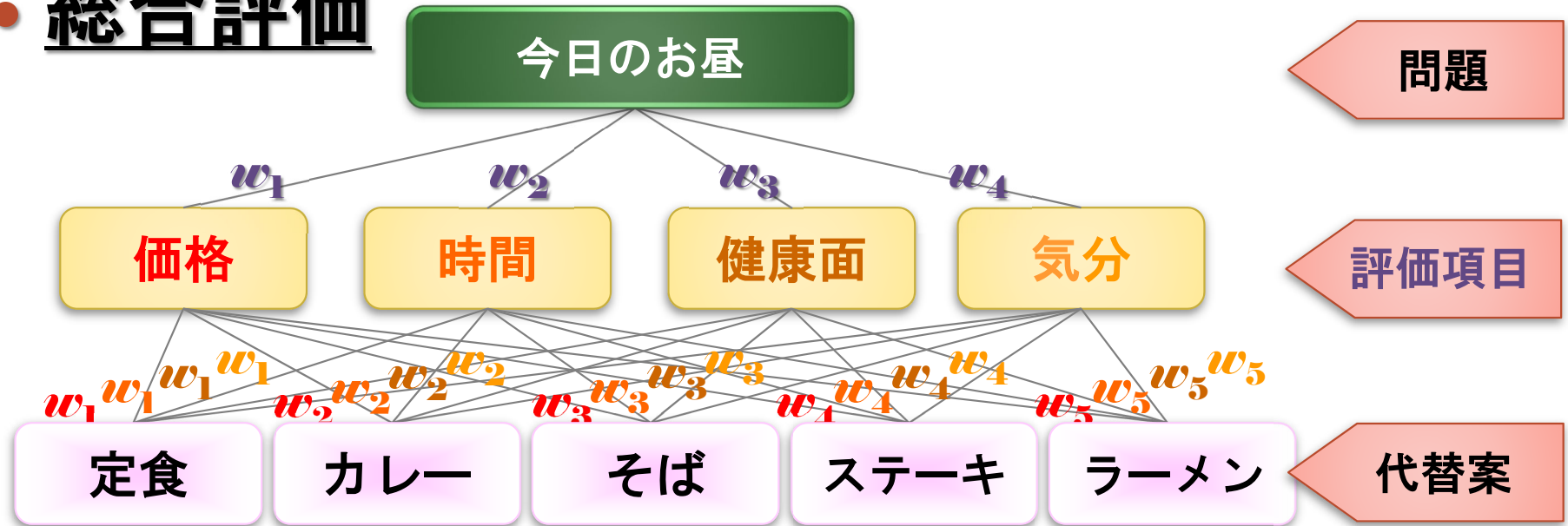
- 重要度から総合得点を計算
 - [問題]に対する評価基準の重要度

お昼	価	時	健	気	重要度
価格	1				w_1
時間		1			w_2
健康面			1		w_3
気分				1	w_4



AHPの基礎

- 総合評価



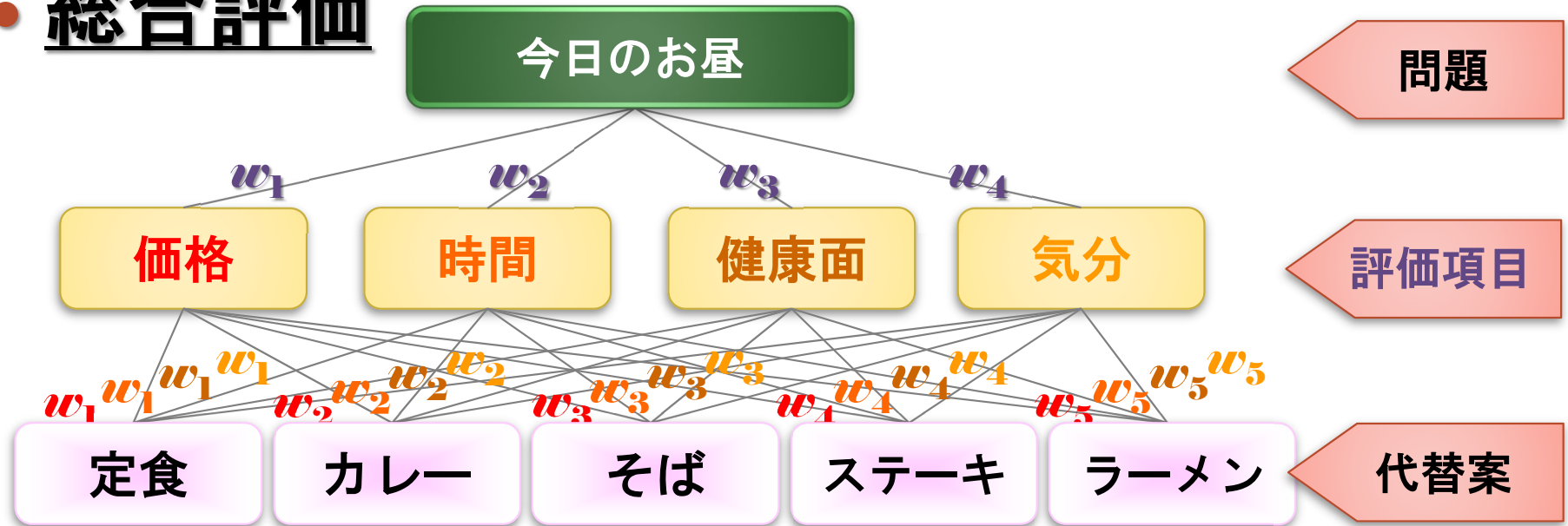
	価格	時間	健康	気分	Total
	w_1	w_2	w_3	w_4	
定食	w_1	w_1	w_1	w_1	t_1
カレー	w_2	w_2	w_2	w_2	t_2
そば	w_3	w_3	w_3	w_3	t_3
ステーキ	w_4	w_4	w_4	w_4	t_4
ラーメン	w_5	w_5	w_5	w_5	t_5

例) 定食の得点

$$t_1 = w_1 \times w_1 + w_2 \times w_1 + w_3 \times w_1 + w_4 \times w_1$$

AHPの基礎

● 総合評価



	価格	時間	健康	気分	Total
定食	0.038	0.242	0.287	0.182	0.214
カレー	0.256	0.302	0.358	0.283	0.300
そば	0.354	0.242	0.219	0.132	0.226
ステーキ	0.078	0.028	0.030	0.352	0.105
ラーメン	0.274	0.185	0.106	0.050	0.155

例) 定食の得点
0.214 =
 0.098×0.038
 $+ 0.569 \times 0.242$
 $+ 0.114 \times 0.287$
 $+ 0.220 \times 0.182$

注) 各重要度は幾何平均法による

演習

一対比較をしてみよう！

〔1〕 三角形の面積比

- ・ 三角形を5つ、定規などで適当に描き、その面積比を目で見で一対比較し、重みを計算せよ
- ・ 実際に面積を測り、比較せよ

〔2〕 国土面積の比較

- ・ 北海道・本州・四国・九州の面積を一対比較せよ
- ・ 実際の面積と比較せよ

〔3〕 AHP実践

- ・ 身近な問題を階層構造で表現し、AHPを適用して代替案の比較をせよ

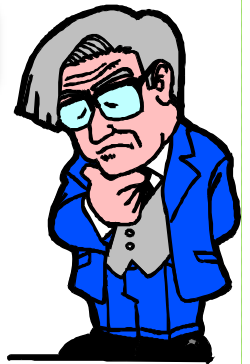
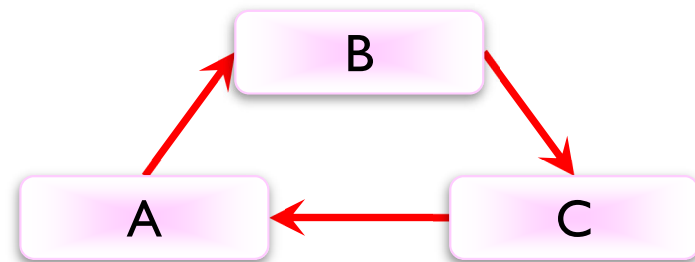
実施における補足

- 一対比較の見直し（整合性の検証）

- 推移律の検証： $A \succ B, B \succ C \Rightarrow A \succ C$

- 不成立の例

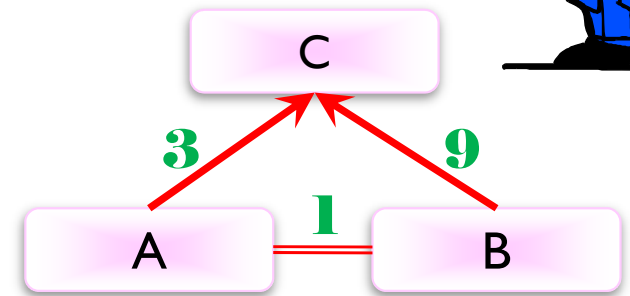
- AよりBが重要
- BよりCが重要
- CよりAが重要



- その他整合性の検証

- 整合性の取れていない例

- AとBが同程度に重要（1）
- AよりCがやや重要（3）
- BよりCが極めて重要（9）



整合性を測る指標があると嬉しい！

実施における補足

- 一対比較行列の整合度C.I. (Consistency Index)

- 主固有ベクトル法の場合

$$C.I. := \frac{\lambda - n}{n - 1} \quad (\lambda \text{ は行列Aの最大固有値})$$

C.I.の値が0.1以下なら、
一対比較行列の整合性OK
そうでなければ整合性なし

- 幾何平均法・調和平均法の場合

$$C.I. := \frac{\tau - n}{n - 1} \quad \left(\tau := \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^n a_{ij} \frac{w_j}{w_i} \right)$$

注) 0.1という基準は目安
経験的に0.1~0.15程度

- 一対比較行列の整合比C.R. (Consistency Ratio)

整合比C.R.は
一対比較行列の
サイズ(n)により、
整合度C.I.を調整
した指標

$$C.R. := \frac{C.I.}{R.I.}$$

C.R.の値が0.1以下なら、
一対比較行列の整合性OK
そうでなければ整合性なし

n	1	2	3	4	5	6	7	8	9
$R.I$	0.0	0.0	0.58	0.90	1.12	1.24	1.32	1.41	1.45

※R.I.は一対比較行列
をランダムに作ったと
きの整合度の平均値

実施における補足

● 整合度C.I.による検証

○ 例)「価格」による5つの代替案の一对比較

● 主固有ベクトル法の場合

$$C.I. := \frac{\lambda - n}{n - 1} \quad \text{主固有値: } \lambda = 7.039$$

→ C.I. = (7.039-5)/(5-1) = **0.510** > 0.1

整合性なし

● 簡便法1：幾何平均法の場合

$$C.I. := \frac{\tau - n}{n - 1} \quad \left(\tau := \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^n a_{ij} \frac{w_j}{w_i} \right)$$

一对比較行列 a_{ij}

価格	定	カ	そ	ス	ラ	G.M.	Weight
定食	1	1/3	1/5	1/9	1/7	0.254	0.038
カレー	3	1	3	5	1/3	1.719	0.256
そば	5	1/3	1	9	5	2.371	0.354
ステーキ	9	1/5	1/9	1	1/5	0.525	0.078
ラーメン	7	3	1/5	5	1	1.838	0.274
				計		6.708	1.000

重要度比較行列 $\frac{w_j}{w_i}$

価格	0.038	0.256	0.354	0.078	0.274
0.038	1.000	0.148	0.107	0.484	0.138
0.256	6.766	1.000	0.725	3.272	0.935
0.354	9.335	1.380	1.000	4.514	1.290
0.078	2.068	0.306	0.222	1.000	0.286
0.274	7.237	1.070	0.775	3.500	1.000

一对比較 / 重要度比較 $a_{ij} \frac{w_j}{w_i}$

1.000	2.255	1.867	0.230	1.034
0.443	1.000	4.139	1.528	0.357
0.536	0.242	1.000	1.994	3.876
4.353	0.654	0.502	1.000	0.700
0.967	2.805	0.258	1.429	1.000

整合性なし

$$\tau = 25 \text{個の値} \uparrow \text{の合計} / 5$$

$$= 35.167 / 5 = 7.033$$

よって C.I. = (7.033-5)/(5-1) = **0.508** > 0.1

実施における補足

- 整合比C.R.による検証

- 例)「価格」による5つの代替案の一对比較

- $C.R. := \frac{C.I.}{R.I.}$

n	1	2	3	4	5	6	7	8	9
$R.I$	0.0	0.0	0.58	0.90	1.12	1.24	1.32	1.41	1.45

評価項目「価格」による5つの代替案の一对比較行列だから、 $n=5$ なので、整合度 $C.I.$ を 1.12 で割る

主固有ベクトル法 : $C.R. = 0.510 / 1.12 = 0.455 > 0.1$

簡便法1：幾何平均法 : $C.R. = 0.508 / 1.12 = 0.454 > 0.1$

整合性なし

実施における補足

● 整合性がない場合の修正箇所を発見

- 要素毎に「**一対比較行列**の値 / **重要度比較行列**の値」を計算したとき、1からどれほど上下にぶれているかを見る(同じなら1になる). かなり異なる箇所を探す

一対比較行列 a_{ij}

価格	定	カ	そ	ス	ラ
定食	1	1/3	1/5	1/9	1/7
カレー	3	1	3	5	1/3
そば	5	1/3	1	9	5
ステーキ	9	1/5	1/9	1	1/5
ラーメン	7	3	1/5	5	1

重要度比較行列 w_i / w_j

価格	0.038	0.256	0.354	0.078	0.274
0.038	1.000	0.148	0.107	0.484	0.138
0.256	6.766	1.000	0.725	3.272	0.935
0.354	9.335	1.380	1.000	4.514	1.290
0.078	2.068	0.306	0.222	1.000	0.286
0.274	7.237	1.070	0.775	3.500	1.000

一対比較行列の値 / 重要度比較行列の値 →

○ = 見直す箇所の候補
○ = 対応する逆数

1.000	2.255	1.867	0.230	1.034
0.443	1.000	4.139	1.528	0.357
0.536	0.242	1.000	1.994	3.876
4.353	0.654	0.502	1.000	0.700
0.967	2.805	0.258	1.429	1.000

実施における補足

● AHPの長所

- 主観的価値基準によって最も高い評価の代替案を選択できる
- 主観的価値基準による代替案の優先順位がわかる
- 評価基準が複数あり、互いに共通の尺度がない問題を解決できる
- 主観的価値基準によって比較（一対比較）を行える
- 部分的な比較・検討の繰返しにより全体の評価ができる
- 意思決定者の主観的基準を結果に容易に反映できる

● AHPの短所

- 階層構造をどう作るのが重要であり、結果がそれに左右される。
- 一対比較が大変で意思決定者の負担になる→比較回数は $O(n^2)$
- 部分ごとにしか比較を行わないので全体的な結果が納得のいかないものになる可能性がある→階層構造をどう作るかに依存
- 一対比較の評価尺度が「順序尺度→間隔尺度（比率尺度）」に機械的に置き換えられてしまう（やや重要⇔重要，重要⇔かなり重要な差などがいずれも2？ 重要は同等の5倍，極めて重要は同等の9倍重要？）

実施における補足

比較結果がない
箇所がある行列

不完全一対比較行列の取り扱い

※なぜこれで良いのかは、
資料ノート[PDF]1.11.3参照

1. Harker法で補う

$$\begin{pmatrix} 1 & ? & 5 & ? \\ ? & 1 & 3 & 7 \\ 1/5 & 1/3 & 1 & ? \\ ? & 1/7 & ? & 1 \end{pmatrix} \longrightarrow \begin{pmatrix} 3 & 0 & 5 & 0 \\ 0 & 2 & 3 & 7 \\ 1/5 & 1/3 & 2 & 0 \\ 0 & 1/7 & 0 & 3 \end{pmatrix}$$

3か所 (?)
一対比較を
していない

1. 比較結果がない箇所(?)を0にする
2. 行毎に対角の1に?の数だけ1を足す

2. TS法 (Two-Stage Method) で補う

$$\begin{pmatrix} 1 & ? & 5 & ? \\ ? & 1 & 3 & 7 \\ 1/5 & 1/3 & 1 & ? \\ ? & 1/7 & ? & 1 \end{pmatrix} \longrightarrow \begin{cases} k_1 := \sqrt{1 \cdot 5} \\ k_2 := \sqrt[3]{1 \cdot 3 \cdot 7} \\ k_3 := \sqrt[3]{1/5 \cdot 1/3 \cdot 1} \\ k_4 := \sqrt{1/7 \cdot 1} \end{cases}$$

$$\longrightarrow \begin{pmatrix} 1 & k_1/k_2 & 5 & k_1/k_4 \\ k_2/k_1 & 1 & 3 & 7 \\ 1/5 & 1/3 & 1 & k_3/k_4 \\ k_4/k_1 & 1/7 & k_4/k_3 & 1 \end{pmatrix}$$

1. 行*i* 毎にある数だけの幾何平均 k_i を計算
2. 抜け箇所を埋める (*i* vs *j* なら k_i / k_j で)

実施における補足

- 重み計算について

- なぜ固有値？（cf. [2] 第7章）

- ・ ペロンの定理：一対比較行列（対角成分が1の正逆数行列）に対し，（スカラー倍に関して）一意で正の主固有ベクトルの存在を保証.
- ・ ペロン・フロベニウスの定理：非負既約行列に対し，同様のことを保証. → **AHP, ANP**での重要度が計算可能.

「既約＝隣接行列と見なしたとき，グラフが強連結」

- ・ 一対比較重要度における自己評価と外部評価のずれのばらつきを最小化する，即ち，過剰評価率を最小化する問題を考えると，固有値法はこの問題を解いていることに相当する.

- 整合度の計算について

完全に整合性がある一対比較行列

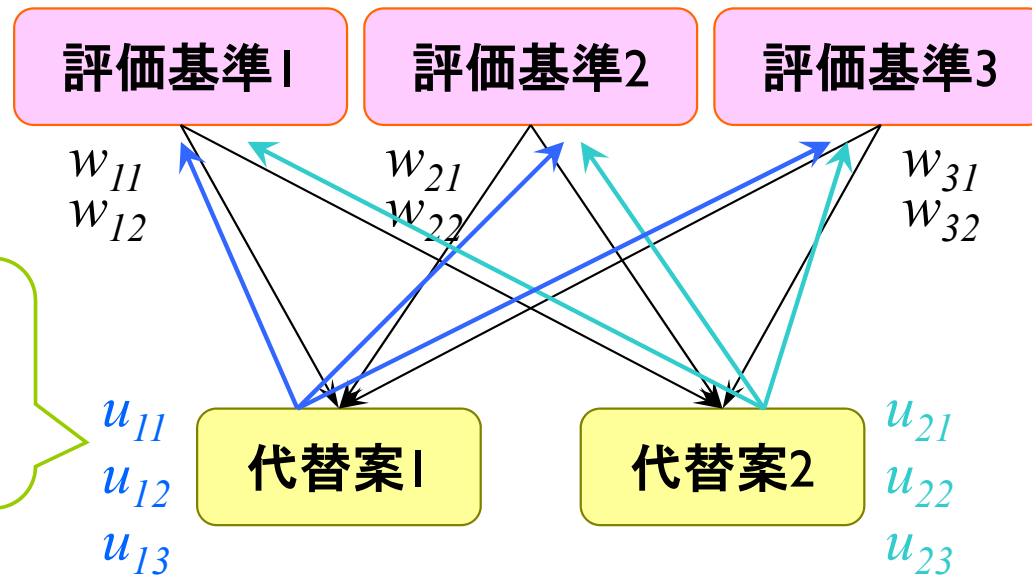
$$\begin{pmatrix} 1 & a_{12} & \cdots & a_{1n} \\ 1/a_{12} & 1 & \cdots & a_{2n} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ 1/a_{1n} & 1/a_{2n} & \cdots & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} w_1 \\ w_2 \\ \vdots \\ w_n \end{pmatrix} = \lambda \begin{pmatrix} w_1 \\ w_2 \\ \vdots \\ w_n \end{pmatrix} \quad \begin{pmatrix} w_1/w_1 & w_1/w_2 & \cdots & w_1/w_n \\ w_2/w_1 & w_2/w_2 & \cdots & w_2/w_n \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ w_n/w_1 & w_n/w_2 & \cdots & w_n/w_n \end{pmatrix}$$

AHPからANPへ

• ANPとは何か？

ANPでは評価基準と代替案を区別しない！

こんな基準で
評価して欲しい、
評価すべきだ！



$$W = \begin{bmatrix} w_{11} & w_{12} \\ w_{21} & w_{22} \\ w_{31} & w_{32} \end{bmatrix}$$

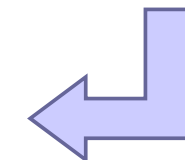
評価基準の代替案
に対する評価行列

$$U = \begin{bmatrix} u_{11} & u_{12} & u_{13} \\ u_{21} & u_{22} & u_{23} \end{bmatrix}$$

代替案の評価基準
に対する評価行列

超行列
super matrix

$$S = \begin{bmatrix} \theta & W \\ U & \theta \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 & 0 & 0 & w_{11} & w_{12} \\ 0 & 0 & 0 & w_{21} & w_{22} \\ 0 & 0 & 0 & w_{31} & w_{32} \\ u_{11} & u_{12} & u_{13} & 0 & 0 \\ u_{21} & u_{22} & u_{23} & 0 & 0 \end{bmatrix}$$



注：各列和は1にする

AHPからANPへ

• ANPの解法：超行列Sが既約な場合

求め方

◦ 例

$$S = \begin{bmatrix} \theta & W \\ U & \theta \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 & 0 & 0 & w_{11} & w_{12} \\ 0 & 0 & 0 & w_{21} & w_{22} \\ 0 & 0 & 0 & w_{31} & w_{32} \\ u_{11} & u_{12} & u_{13} & 0 & 0 \\ u_{21} & u_{22} & u_{23} & 0 & 0 \end{bmatrix}$$

$$Sx = x$$

を満たす x の各成分 x_i が対称 i の総合評価を与える

注：確率行列（各列和が1）の最大固有値は1なので、
この法的式の解 x は主固有ベクトルとなる

$$\left(\begin{array}{l} Sx = x \\ \Leftrightarrow \begin{bmatrix} 0 & W \\ U & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} z \\ v \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} z \\ v \end{bmatrix} \\ \Leftrightarrow Wv = z, Uz = v \\ \rightarrow WUz = z \\ \Leftrightarrow (WU - I)z = 0 \\ \text{で } z \text{ を求め, } Uz = v \text{ より } v \text{ を求める.} \end{array} \right)$$

S が既約行列 $\Leftrightarrow S$ を隣接行列と見たときの対応するグラフが強連結
irreducible matrix

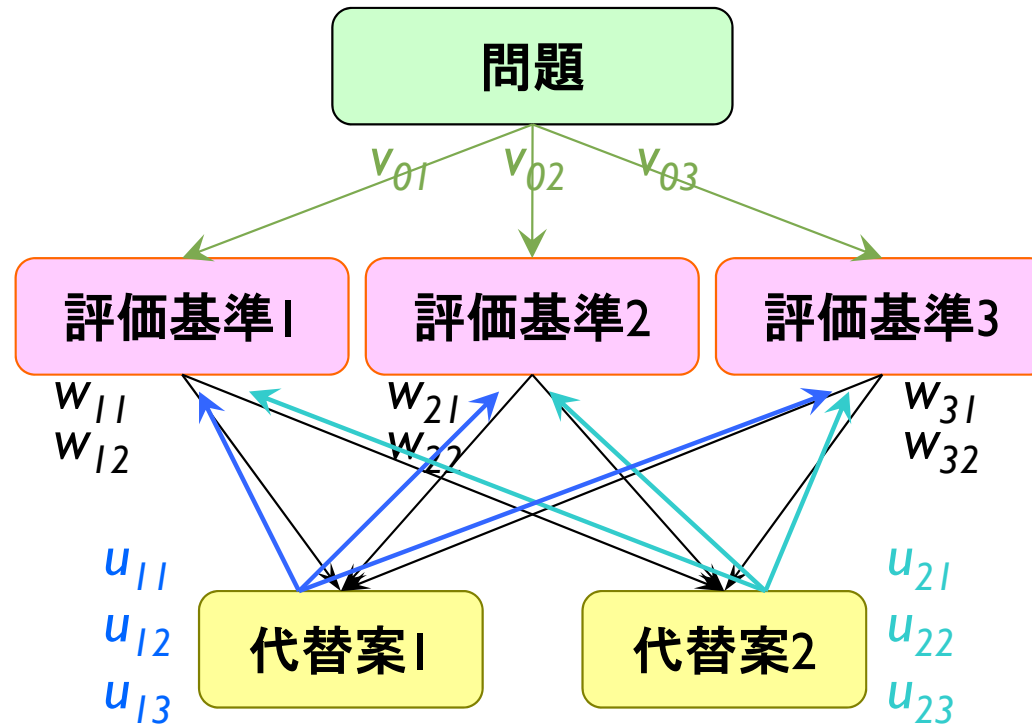
S が原始行列 $\Leftrightarrow S$ を隣接行列と見たときの対応するグラフの原始指標が1
primitive matrix

〔原始指標：強連結グラフの全サイクルの長さの最大公約数〕

AHPからANPへ

• ANPの解法：超行列Sが既約でない場合

○ 例



$$V = \begin{bmatrix} v_{01} \\ v_{02} \\ v_{03} \end{bmatrix} \quad \text{評価基準} \\ \text{に対する} \\ \text{評価行列}$$

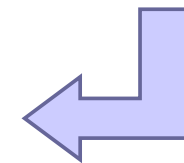
$$W = \begin{bmatrix} w_{11} & w_{12} \\ w_{21} & w_{22} \\ w_{31} & w_{32} \end{bmatrix} \quad \text{評価基準の代替案} \\ \text{に対する評価行列}$$

$$U = \begin{bmatrix} u_{11} & u_{12} & u_{13} \\ u_{21} & u_{22} & u_{23} \end{bmatrix} \quad \text{代替案の評価基準} \\ \text{に対する評価行列}$$

参考：解法は、
グラフを強連
結成分分解し、
ブロック下三
角行列の形に
した上で、半
順序の上位ク
ラスタから逐
次的に求める。

超行列
super matrix
(既約でない)

$$S = \begin{bmatrix} 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ v_{01} & 0 & 0 & 0 & w_{11} & w_{12} \\ v_{02} & 0 & 0 & 0 & w_{21} & w_{22} \\ v_{03} & 0 & 0 & 0 & w_{31} & w_{32} \\ 0 & u_{11} & u_{12} & u_{13} & 0 & 0 \\ 0 & u_{21} & u_{22} & u_{23} & 0 & 0 \end{bmatrix}$$



参考文献

- [1] P.T. Harker, ``Alternative modes of questioning in the analytic hierarchy process,” *Mathematical Modeling, Vol.9, pp.353-360, 1987.*
- [2] 木下栄蔵 編著 「AHPの理論と実際」 日科技連 (2000)
- [3] 竹田英二, ``不完全一対比較行列におけるAHPウェイトの計算法,” *オペレーションズ・リサーチ, Vol.34, No.4, pp.169-172, 1989.*
- [4] 高橋磐郎, ``AHPからANPへの諸問題 I~VI,” *オペレーションズ・リサーチ, Vol43, No.1-6, pp.36-40, 1998.*
- [5] 刀根薫 「ゲーム感覚意思決定法～AHP入門～」 日科技連 (1986)
- [6] 刀根薫, 真鍋龍太郎 編 「AHP事例集」 日科技連 (1990)
- [7] 八巻直一, 関谷和之, ``複数の評価者を想定した大規模AHPの提案と人事評価への適用,” *J. ORSJ, Vol.42, No.4, pp.405-420, 1999.*
- [8] 八巻直一, et. al, ``不満関数を用いる集団区間AHP法,” *J.ORSJ, Vol.45, No.3, pp.268-283, 2002.*